

○厳しさをまず予算委員会交渉

補正予算の審議が始まりました。予算委員会の現場では、「小沢さんの証人喚問を決めなければ、予算審議に入らない。」と、あらゆる場面で野党は言ってきます。岡田幹事長が小沢さんに会って事態を打開しようと努力していますが、小沢さんは拒否。裁判で決着をつけると言います。やがて菅総理の出番とならざるを得ないと思います。一方で、仮に、小沢さんが国会で弁明したら、事態は収まるかと言う問題があります。弁明が不十分だとか、議員辞職して責任取れたとか、様々に理由を付け、引き続き国会審議の引き延ばしを図るのだと思います。いずれにしても、私は、小沢さんの適切な決断を期待します。

補正予算は景気対策の要です。出来れば、こんな入り口の話でなく、中身で与野党話し合いをしながら野党も賛成してくれる方途を探すことも求められています。予算の審議を野党に闇雲に引き延ばされることだけは避けなくてはなりません。このための交渉を野党としていくことに今は、私自身が全力を尽くすことだと思っています。

○外交の本当の評価は、これから

尖閣諸島で中国がイチャモンをつけてきたと思ったら、今度は、ロシアの大統領が北方領土に入ってきました。どちらも、国内の政治状況が政治指導者を強引なパフォーマンスに突き動かしているようです。私達日本のサイドは、出来る限り冷静にことを見極めて、大人の対応をとることだと言いながら、ことを大きくすることを避けてきました。一部、それが功を奏して、アメリカを始め国際世論は、中国やロシアの未成熟な政治権力に厳しい判断をして批判しています。しかし日本にとっては、それだけでは不十分だと私も思います。今回の出来事で、反省することがあるとすれば、こうした事態を想定して危機管理が出来て、その時点で効果的に切れるカードを用意しておくことだと思っています。政治主導の要諦は、その肝心なところにすばやく判断が下せる仕組みを入れ込んで普段から準備をしておくことです。

尖閣問題のビデオが漏洩して、ユー・チューブに衝突の映像が流れました。誰が、どのような目的でこれを漏洩させたか徹底的に究明することです。国会では、事件の証拠物だからということで、委員会で質問する人たちを中心に見ることとして、制限的な扱いをしてきました。今回の海上保安庁の話だけでなく、警察や検察の情報管理や組織のガバナンスには、多くの問題があります。

IT 時代への対応の遅れ、内部の人間に対して、あまりにも性善説に偏った甘い組織運営など、ここでメスを入れることは、国会としても大事なことだと思っています。

○ヨーロッパ民主主義に学ぼう

デンマークから来た議員と日本の政治について話をする機会がありました。二つのことをアドバイスしてくれました。一つは年金。「日本でも年金改革が始まるようだが、デンマークの改革は今のところ成功している。基礎年金は全額税負担。その上に、本人の払った保険料に応じて年金額が決まる報酬比例年金。人口の老齢化に対する財政需要は、年金支給年齢を上げていって、現在は65歳。企業の退職年齢もこれに応じた引き上げを法律で担保している。さらに、基礎年金の財源は、消費税。ただし、現在の25%の消費税は、年金だけでなく、失業保険、子供手当、保育園から大学までの授業料の無償化など、様々な生活の安心とパッケージで提案して、国民の納得を得ている。」と言う話です。消費税論議は、それを何に使うかということの説明しなければ、国民は納得しないと言う教訓です。

もう一つのアドバイスは、ねじれ国会。デンマークでも同じような国会を切り抜けてきたと言います。「ただし、予算などは、提出するときから野党の修正は織り込み済み。政府は逆に厳しいめに出しておいて、国会の場で国民に分かるように修正協議をすることで、野党にもポイントを稼いでもらう。野党が修正したからには、予算案に反対と言うことは出来ない理屈になる。」さすがにヨーロッパの国々は熟練の民主主義。見習うことが多いと思います。日本の国会では、まだ頭の切り替えが出来ていません。残念なことに、いまだに私たちは与野党共に、間違ったところでポイント稼ぎをしているようです。

○テレビはこわい

「いつもの中川さんではなくて、予算委員会ではきびしい顔しとるな。」「横ばかり向いてないで、カメラの方を向いたらどうや。」予算委員会は、NHK の実況中継が入るので、テレビに映る私の姿に地元の皆さんから熱い応援？をいただきます。筆頭理事の席は、前列真ん中だから、絶えず質問者の後ろに映し出されることになって、油断できません。一日7時間、「頭をかいたり、あくびをしたりもみんな映るんだから、中川さん、頑張ってよ。」と言われても…。

中川正春